

\*重化学工業通信社の石油化学新報、並びに Web 版の Jchem-News より提供していただきました。

2010.09.07

---

◇ダイセル化学、LLNA-DA法がOECDテストガイドラインに

ダイセル化学工業は、独自に開発した汎用化学品の皮膚感作性を簡便に検出するLLNA(局所リンパ節試験)-DA法がOECD(経済協力開発機構)テストガイドラインに収載されたと発表した。日本オリジナルの安全性試験(代替法)として、初の採用となる。

LLNA-DA法は、感作性物質より誘導されるリンパ球の増殖の指標としてATP(アデノシン三リン酸)の測定を利用する、RI(ラジオアイソトープ：放射性同位体)を用いない新しい評価手法。2004年には日本動物実験代替法学会に同法の評価を依頼し、国内17研究所での2回にわたる共同研究を経て、有効性が確認された。この結果を受け、国立医薬品食品衛生研究所新規試験法評価室やJACVAM(日本動物実験代替法検証センター)、欧米専門機関の協力の下、厚生労働省を通じOECDへ新規試験法として申請。このほどOECDテストガイドライン442Aとして採択された。

従来、化学物質の皮膚感作性を調べるにはモルモットを用いたテストが汎用的に使われてきた。近年では、大幅な試験期間の短縮と試験費用の低減が図れるLLNA法が開発され、OECDテストガイドライン429として世界的に普及している。LLNA法は多くの化学薬品を評価するうえで優れているが、RIを用いるためRI実験区域を持たない施設では利用できないという問題があった。

---

※掲載記事の無断転載を禁止します。

著作権は<<http://www.jkn.co.jp/>>(株)重化学工業通信社に帰属します。

Copyright (C) The Heavy & Chemical Industries News Agency, all rights reserved